

# がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコルの提出が必須です  
プロトコルがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	チラブルチニブ(WM/LPL)
診療科名	血液・腫瘍内科
診療科責任者名	末永 孝生
適応がん種	原発性マクログロブリン血症 及びリンパ形質細胞リンパ腫
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	LPL-004
登録日・更新日	2020年10月27日
削除日	
出典	ベレキシブル錠添付文書・適正使用ガイド
入力者	湯山 聡

投与順に記入(抗がん剤のみ)

No.	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名)	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
	希釈液					
No.1	チラブルチニブ塩酸塩 (ベレキシブル錠)	80mg	480mg/body/日	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CVポート <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(経口)	1日1回*	連日
	なし	-				

1コースの期間	-
投与間隔の短縮規定	<input type="checkbox"/> 短縮可能(日)・ <input type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	・開始基準 ANC $\geq$ 1000/ $\mu$ L, PLT $\geq$ 5万/ $\mu$ L, Hb $\geq$ 8.0g/dL AST $<$ 100IU/L, ALT $<$ 100IU/L, T-Bil $<$ 1.5mg/dL, CrCl $\geq$ 30mL/min																
	・減量段階																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>段階</th> <th>用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通常投与量</td> <td>480mg</td> </tr> <tr> <td>1段階減量</td> <td>320mg</td> </tr> <tr> <td>2段階減量</td> <td>160mg</td> </tr> </tbody> </table>	段階	用量	通常投与量	480mg	1段階減量	320mg	2段階減量	160mg								
段階	用量																
通常投与量	480mg																
1段階減量	320mg																
2段階減量	160mg																
	・休業・減量・中止基準																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>副作用*</th> <th>処置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Grade4の好中球減少症</td> <td>Grade3以下に回復するまで休業する。回復後は、休業前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休業し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。</td> </tr> <tr> <td>出血を伴うGrade3の血小板減少症</td> <td>Grade2以下に回復するまで休業する。回復後は、休業前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休業し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。</td> </tr> <tr> <td>Grade4の血小板減少症</td> <td>Grade3以上の血液毒性(血小板減少症及び好中球減少症を除く)</td> </tr> <tr> <td>Grade3以上の非血液毒性(間質性肺疾患及び皮膚障害を除く)</td> <td>Grade2又は3</td> </tr> <tr> <td>間質性肺疾患</td> <td>Grade1以下に回復するまで休業する。回復後は、休業前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休業し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。</td> </tr> <tr> <td>皮膚障害</td> <td>Grade4 Grade2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Grade3以上</td> </tr> </tbody> </table>	副作用*	処置	Grade4の好中球減少症	Grade3以下に回復するまで休業する。回復後は、休業前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休業し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。	出血を伴うGrade3の血小板減少症	Grade2以下に回復するまで休業する。回復後は、休業前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休業し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。	Grade4の血小板減少症	Grade3以上の血液毒性(血小板減少症及び好中球減少症を除く)	Grade3以上の非血液毒性(間質性肺疾患及び皮膚障害を除く)	Grade2又は3	間質性肺疾患	Grade1以下に回復するまで休業する。回復後は、休業前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休業し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。	皮膚障害	Grade4 Grade2		Grade3以上
副作用*	処置																
Grade4の好中球減少症	Grade3以下に回復するまで休業する。回復後は、休業前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休業し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。																
出血を伴うGrade3の血小板減少症	Grade2以下に回復するまで休業する。回復後は、休業前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休業し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。																
Grade4の血小板減少症	Grade3以上の血液毒性(血小板減少症及び好中球減少症を除く)																
Grade3以上の非血液毒性(間質性肺疾患及び皮膚障害を除く)	Grade2又は3																
間質性肺疾患	Grade1以下に回復するまで休業する。回復後は、休業前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休業し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。																
皮膚障害	Grade4 Grade2																
	Grade3以上																
前投薬	なし																
その他の注意事項	<p>* 空腹時に経口投与すること。食事の1時間前から食後2時間までの間の服用は避けること。</p> <p>・重度の皮膚障害があらわれることがある。皮膚障害が発現して中断した場合、投与再開時に抗アレルギー薬又は副腎皮質ホルモン剤の予防投与を検討すること。</p> <p>・抗菌薬及び抗ウイルス薬の予防投与を検討すること。</p> <p>・B型肝炎ウイルスの再活性化があらわれることがあるので、投与に先立って肝炎ウイルスの感染の有無を確認すること。投与開始後は継続して肝機能検査や肝炎ウイルスマーカーのモニタリングを行うなど、B型肝炎ウイルスの再活性化の徴候や症状の発現に注意すること。</p>																

記入者	湯山 聡
確認者	竹内 正美